



開市神社

葛塚の稲荷神社境内に建立されている開市神社には、葛塚の里正であった遠藤家の人々が神として祭られています。

開市神社と遠藤家



(13)

遠藤家は、寛延三年(一七五〇)に城村名主から葛塚の名主として来任して以来、明治に至るまで代々葛塚の里正を勤めました。葛塚遠藤家の祖となった七郎左衛門宗寿は、宝暦四年(一七五四)に葛塚が幕府に上知され、水原代官所支配になるや、地方発展のためその手腕を縦横に発揮しました。特に宗寿の功績のうち著名なものは、

- 一、築堤一村の周囲に堤を築いて洪水を防ぎ、村民の生活安定を図った。
- 二、耕地購入一全村が新発田藩家老溝口内匠の所有であったが、宝暦六年(一七五六)に耕地を購入して村民のものとした。
- 三、市場の開設一宝暦七年(一七五七)に開市を出願、新発田、水原の反対を押し切り、宝暦十一年(一七六一)十一月八日官許を得て六斎市を開設した。などがあります。

七代目七郎左衛門国忠は、宗寿の功績を高く評価し、文久三年(一八六三)四月、町方の寄り合いの席で、「市は当方にて興立いたし候儀に付、右冥加としていなり様境内へ当方宗寿居士の祠を立候

事」と提案して賛成を得ました。次いで在方の寄り合いの席で、「石動様へは当村開発由緒、骨折も有之候間、同様相立」と提案して賛成を得ました。

同年八月、稲荷神社境内には、開市の神として祭られ、石動神社境内には用水の神として祭られました。明治四年(一八七二)常盤町の開設にあたり、両祠を合祀して開市神社として建立されました。

神社には、宗寿のほかには社倉の設置や消防組の整備などに尽力した七郎左衛門国忠や明治維新の際、北辰隊長として活躍した七郎昭忠も合祀されています。

市史編さん室主事 鶴間公男

市史編さんにご協力を

市では「豊栄市史」を編さんするため、資料調査を実施しています。次のような資料等をお持ちの方あるいは知っておられる方は、市史編さん室(博物館内 六一一〇八一)までご連絡ください。

- 土器、石器など
- 古い文書、記録、写真など
- 昔話、伝説など

わたしたちの社会生活には、冠婚葬祭をはじめ四季折々の生活の行事、職場でのお付き合い、家庭にあつては晩酌や隣近所との交際など、お酒を口にする機会が数多くあります。

そして、酒がきらいな人やそれほど強くない人に「まあ、一杯」と無理にすすめても、失礼とか無作法と考えない一面が、わたしたち日本人にはあるようです。

お酒は上手に飲むと、食欲は増進し、血液の循環がよくなって新陳代謝も盛んになります。さらに神経や筋肉の緊張をほぐし、疲労回復や気分転換に役立ちます。

しかし、下手に飲むと、いろいろな事故の原因となるばかりか健康を害し、ついにはアルコール中毒まで進み家庭的、社会的悲劇のもとになります。

お酒は上手に飲んでこそ、明日への活力の泉となります。

酒の飲み方考えてますか？



市役所にコンピュータが登場



一見テレビゲームのようですが市役所事務のスピードアップと、市民サービスの向上をねらって導入された電算機(コンピュータ)です。本格的な稼働は4月からですが、現在、試運転や操作の訓練、それにデータの入力など準備が着々と進められています。

最近、県内の各自治体でコンピュータ利用が図られていますが、市の事務電算化はその先端を行くものとして、注目と期待が寄せられています。

身障者に便利な公衆電話



市役所本庁の玄関脇に設置された、車いすの人も利用できる公衆電話ボックス。路面から入口まで傾斜が付けられ、受話器などの高さも低く、にぎりを下へ引くとドアが開く仕掛けになっています。

車いすの利用者は市内で四十人ほどおりますが、この型の電話は県内でも数少ないとのこと。



各地区の児童館では、こままわし、かるた、トランプなど、新春のゲーム大会が行われています。大会を前に、こままわしの練習に興ずる児童たち(1月12日、葛塚東児童館で)